

振興条例による 中小企業振興の先進事例

2020年1月31日

呉市中小企業・小規模企業振興会議

慶應義塾大学 植田浩史

中小企業・小規模企業振興条例の枠組み

日本社会・経済の変化
・高齢社会、人口減少
・経済の成熟、停滞
・格差の拡大
・国際競争力の低下

地域社会・経済の変化
・人口減少、事業所数減少の悪循環
・地域社会、地域経済、地域生活崩壊への危機感

環境・時代認識

地域、日本経済、中小企業をめぐる環境の大きな変化
将来の地域や中小企業に対する危機感
地域独自の問題状況
現状に即した中小企業への有効な施策の必要性

地域全体の共通認識

地域の経済、社会、文化、歴史などに、過去、現在、未来にわたって中小企業が重要な役割を果たしていることを地域全体で確認する

地域（自治体や関連機関、住民）

中小企業に対して協力して、その安定的な経営と事業の発展のために支援を行うことを宣言

中小企業・小規模企業

環境変化に耐え、事業を発展させるために自助努力と自己研鑽を行うことを宣言

（目標）

地域と中小企業それぞれの努力と協働により地域に新たな経済、価値の創造、イノベーションを創造⇒地域経済の安定的な発展、生活の向上

条例	都道府県	制定時期							計 (A)	区市町村数 (B)	A/B (%)
		～2000年	2001～10年	2011年～15年	2016年	2017年	2018年	2019年			
区市町村条例	北海道		8	12	5	10	9	1	45	179	25.1%
	東北地方		3	13	5	8	12	14	55	227	24.2%
	関東地方		17	16	7	14	21	2	77	254	30.3%
	東京都	9	12	3					24	62	38.7%
	中部地方	2	9	23	24	25	14	8	104	345	30.1%
	近畿地方		6	11	4	6	9	7	43	198	21.7%
	中国・四国地方	1	1	16	12	20	14	10	74	202	36.6%
	九州・沖縄地方	1	6	17	10	13	10	7	64	274	23.4%
	計	13	62	111	67	96	89	49	486	1,741	27.9%
都道府県条例		16	24	4	3	2		45	47	95.7%	

- ・ 条例の存在は当たり前になりつつある（上記表、2019年10月時点） 島根県では100%
- ・ 大事なのはできてから何をやるのか→新しいことにチャレンジしている、というところは少ない
- ・ 制定に向けての議論、首長や行政の対応、振興会議・円卓会議の持ち方、人づくり・地域づくり…

1979年 東京都墨田区 最初の条例

- 製少経い業
 小ル減域と企
 中のの地る小
 のの数え中
 大代所少与に
 最年業減を自
 内70事の響独い
 都→で)影がな
 に域ク業な体く
 期地ッ造き治多
 長たヨ製大自は
 成しシにて台例
 度積油特っ在む
 高集石(と存組
 が、業にのり
 業ク企社会感取
 区企ッ小社機に
 田業ヨ中・危
 墨造シ=済う支
 援

墨田区条例の意義

①自治体が独自に中小企業を振興しようとい
う例が少ない中で、自治体独自の積極的な対
応を明確にしていた

②地域企業の具体的な姿を調査し、現実の状
況に対応した施策を検討しようとした

③中小企業振興会議を設置し、中小企業振興
のための議論と具体策検討の場を設けた

→今日においても墨田区モデル(条例、調査、
振興会議) = 三点セット、の有効性が

- 産業振興会議
- 当初は、若手経
 業界、経営者、
 心、現
 1985年をのいるし基本
 営田しわり基本
 業界、経営者、
 心、現
 1985年をのいるし基本
 営田しわり基本
- 位置づけ、審議会的な位置づけであり、区
 の産業振興政策を決定していく極めて重要な
 場
- 目的、産業振興策に
 どの、産具行、ハ業振興策、ソフ、ト、マ、ス、タ、一、プ、ラ、ン、な
 し、し、行、業、具、行、ハ業振興策にソフ、ト、マ、ス、タ、一、プ、ラ、ン、な
 し、し、行、業、具、行、ハ業振興策にソフ、ト、マ、ス、タ、一、プ、ラ、ン、な
- 委員(墨田)委員は産一
 委員(墨田)委員は産一
 委員(墨田)委員は産一

東京都墨田区の事例 産業振興会議からの成果

- 「すみだ産業会館」「すみだ中小企業センター」といったハードの設置と運営に関する議論⇒中小企業の企業から見て使いやすい施設、複合施設のメリット
- 1985年から進めた区内産業・区内製品をPRする「3M運動」、2003年から進めた後継者・若手企業人育成のための「フロンティアすみだ塾」
- 「墨田区産業振興マスタープラン～Stay Fab」2013年3月 産業振興会議の最新の成果物
- 職員 移動を前提
⇒誰でも担当できるよう訓練されている
⇒若手の経営者たちと一緒に勉強していく
- 経営者 若手などの人材育成のプロセスが確立
フロンティアでの研鑽⇒研修とネットワーク⇒経営での実践⇒産業振興会議委員として区の中小企業振興を担っていく
- 産業振興会議委員が一種のステータスに

平成 25～28 年度採択 新ものづくり創出拠点の概要

●ガレージ スミダ (平成 25 年度採択)

運営事業者：株式会社浜野製作所

住所：墨田区八広 4-39-7

URL：<http://www.garage-sumida.jp/>

浜野製作所が培ってきたものづくりの基盤技術、工場見学やワークショップ、産学連携や異業種交流といった取組を、最新のデジタル工作機器を備えた新しいものづくり拠点に一挙に集約し、世界中の人々・アイデア・マーケットをつなぐことで、区内外から新しい人材や事業者を呼び込むとともに未来の墨田区を支える新しい産業のサイクルを生み出す。



◆拠点のポイント◆

ものづくりベンチャー企業やクリエイターらのアイデアを図面化し、試作から量産化までサポートする。この拠点を受け皿にもものづくり相談の情報や製造ノウハウを蓄積し、内容に応じて区内企業と連携しながら、個人から企業まで幅広くものづくりのトータルサポートを行う。

「Garage Sumida」を立ち上げた背景と狙い

- 創業から40年以上にわたり墨田区で積み上げてきた金属加工基盤技術、区内外の幅広い製造ネットワーク、お客様からの信頼
- **墨田区「新ものづくり創出拠点整備補助金」の公募タイミング**
→区内の空き工場等を活用し、ものづくりの新たな形を生み出す事業者に助成



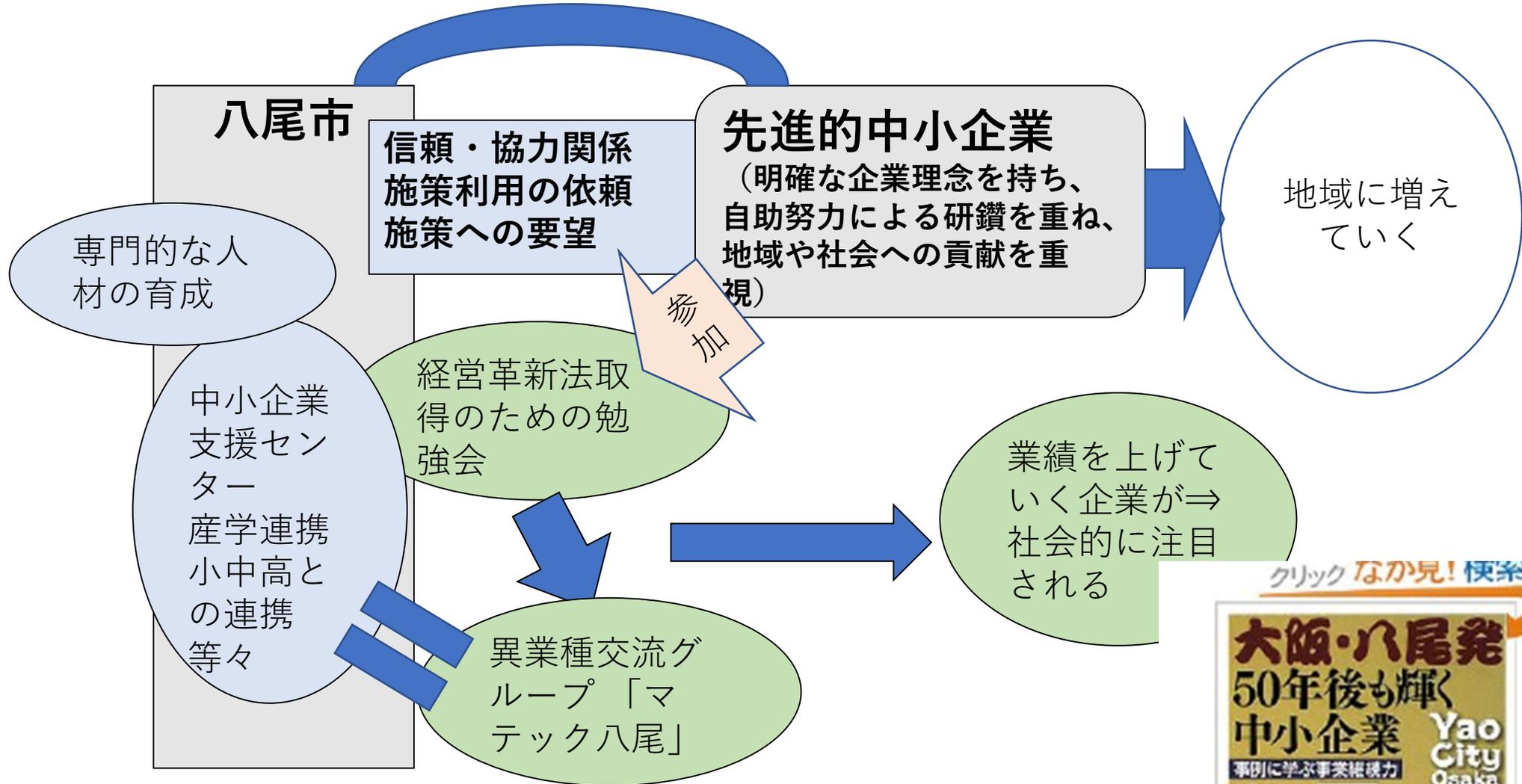
- ただ待っていても下請け仕事は減る一方。中小企業自ら情報発信力を持ち、業界・業種を跨いだ新たな仕事を生み出していく必要がある
→高度人材の集まる**“都市型・先進ものづくり”**への挑戦！
- 3Dプリンターをはじめとするデジタルファブ리케이션に従来の中小製造業は悲観的。とりあえず自ら使って試してみよう！
→Fablabや機材レンタル業とは異なる**“本格的なものづくり”**との融合

施設自体が「実験工房」というマーケティング要素を含んでいる。

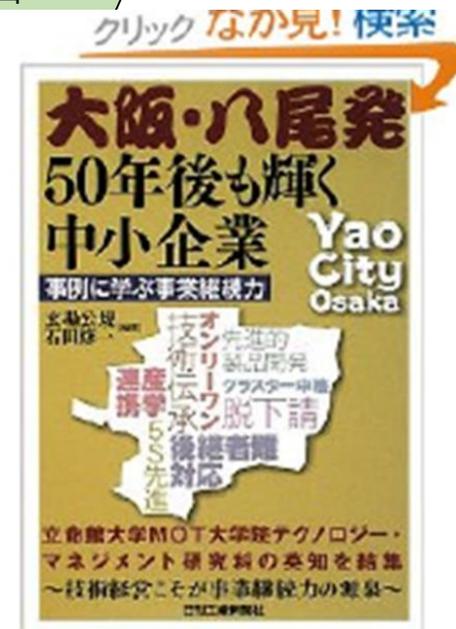
1年間は様々な問い合わせにできる限り対応し、世の中のニーズを探ってみる！

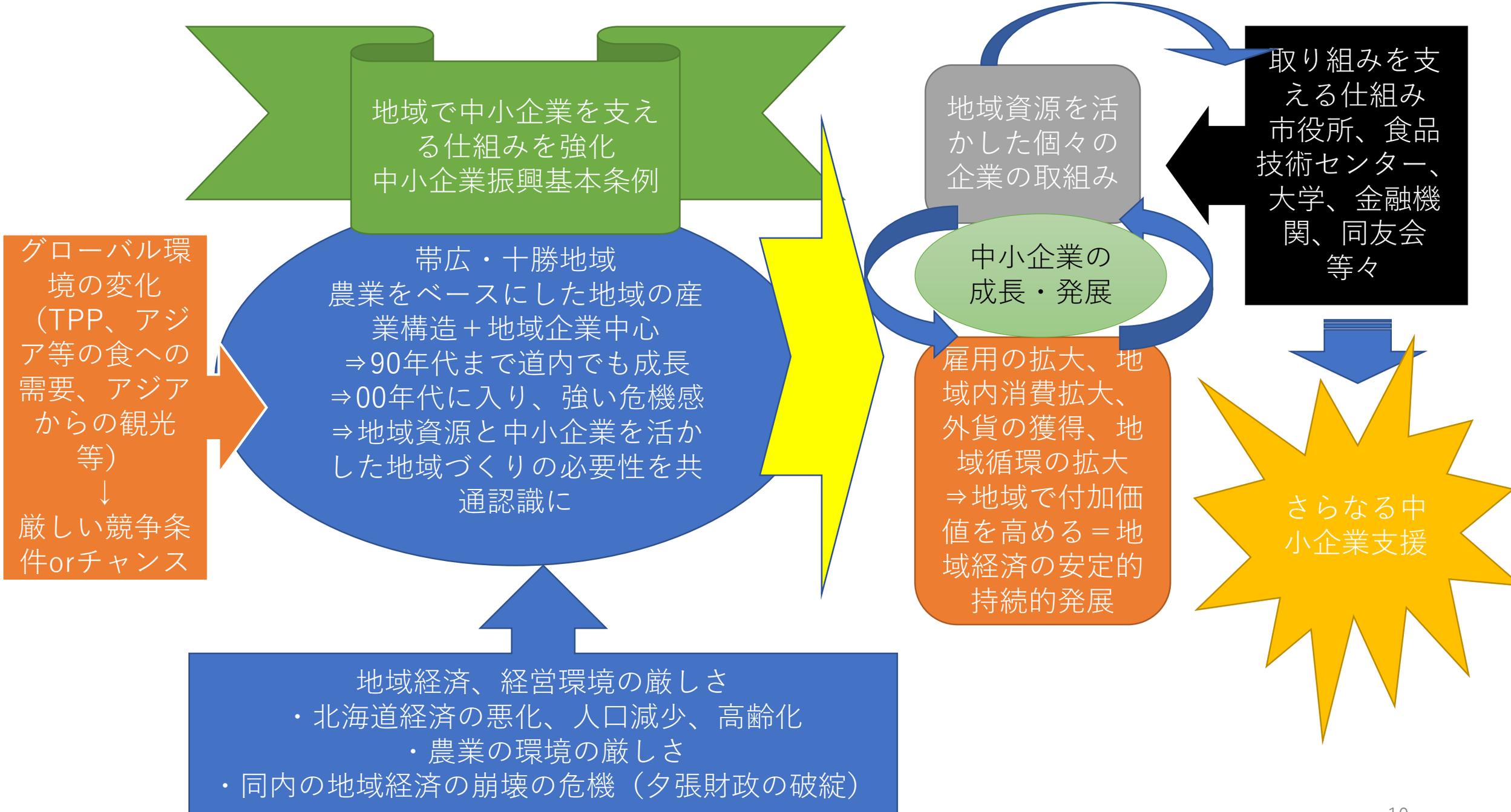
2001年 大阪府八尾市

- 1997年から短期間に集中的に産業振興の体制と仕組みを整えてきた = 後発性の利益を最大限に活用
 - まず現状を把握 調査、企業訪問、担当部局内部での問題共有（製造業実態調査）
 - 市民や中小企業との協働（産業振興会議）
 - 市の仕事に位置づけさせる（総合計画、基本条例など）→他部門との協力（ex. 教育委員会…）
 - 真摯な中小企業者の地道な活動（竹濑地区のユースシンク21など）
 - 国からも注目→施策のモデルの対象に
- 条例制定を機に変わったこと
 - ①行政の中小企業振興に対する位置づけと中小企業への認識→中小企業の地域における重要性とその発展の必要性→施策の有効活用
 - ②中小企業側の自覚と自負→「経営理念」
 - ③中小企業と行政の目的を共有する一体感、信頼感の醸成→中小企業振興策が「生きた施策」に
 - ④中小企業側の積極的な姿勢と経営の発展
 - ⑤周辺地域への波及（→例えば、大東市）



行政からの情報⇒施策の積極利用
⇒新しい事業展開
自主的な地域活性化
企業間の協力と切磋琢磨





積極的な新商品開発
行政等の支援

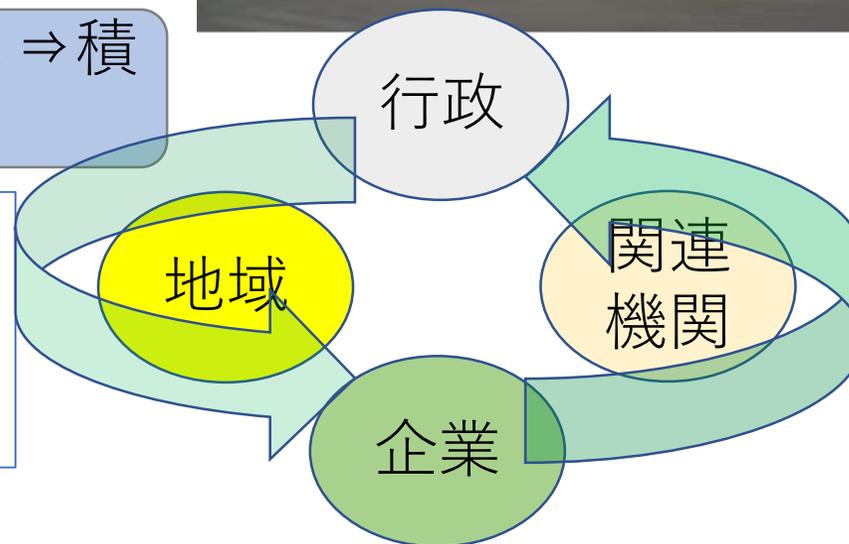
地域資源活用
小麦の利用増
…パン、餃子等

地元の小麦を利用したい
=供給不足が桎梏に

地域の発展と自社の発展を結び付けて考える⇒積
極的な投資を=新しい製粉工場が地域に

山本忠信商店（音更町）の戦略 地域とともに発展
地元小麦を利用し付加価値を付けた商品を製造・販
売⇒地元小麦の需要拡大で地域農業を支える⇒T P
Pでも勝ち残れる地域を創っていく

農協⇒大手製粉会社
⇒「国産小麦」に
十勝小麦ではない





- 広瀬すずさんが安藤さくらさんに送ったのは？
- ラクレットチーズがトッピングした「とろーりチーズパン」
- 作っているのは？ 帯広市の「満寿屋パン」

朝ドラ恒例のバトンタッチ
2019年3月



松山市 円卓会議で新しい取り組みを

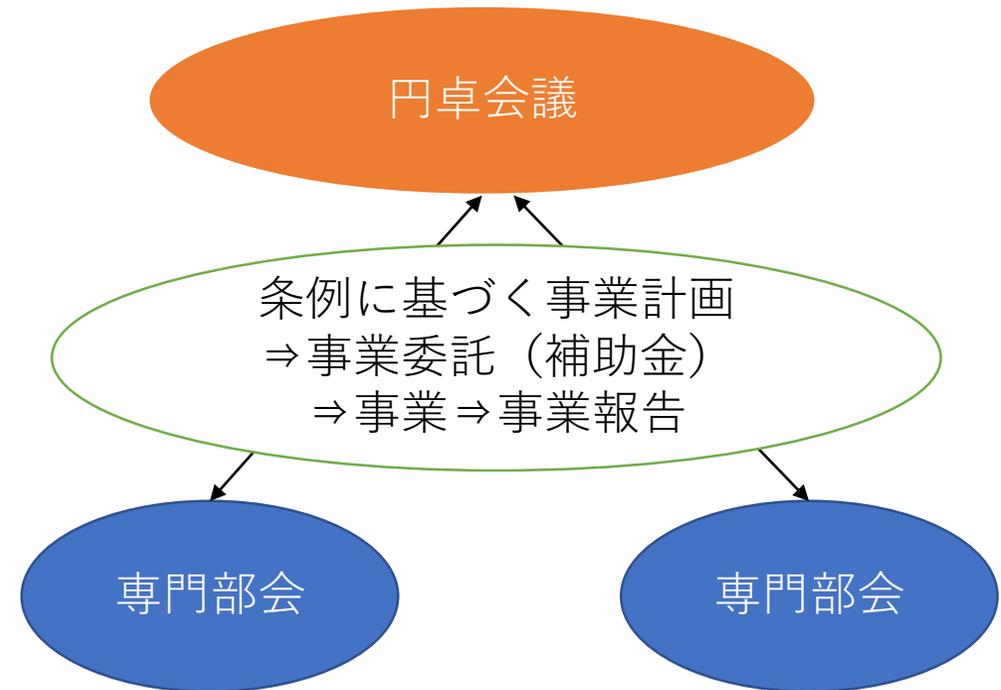
- 円卓会議（関係団体、金融機関、大学等）年3回程度

- 専門部会に事業や検証を委託

① 女性の労働環境改善による社会進出の促進 地域企業の労働環境を改善し、女性の社会進出につなげていくため、企業間での女性従業員や経営者の勉強会等を開催

② 女性の創業支援 起業をしたい女性を応援するため、経営セミナー及び交流会の開催や企画書・計画書の作成指導などの支援を行う

③ 学校におけるキャリア教育の推進 中小企業の地域経済における重要な役割について理解を深めていくため、教育機関や大企業等との連携により、学生に対する職業体験の場を提供する。



女性の起業支援に関する推進・検証等活動 起業までの成長応援 なでしこドリームプロジェクト（2017年度）

- 特定非営利活動法人ワークライフ・コラボ+えひめ産業振興財団、ジョブカフェ愛ワーク、未来jobまつやま、NPO法人えひめリソースセンター
- 1. 3期生連続講座受講者 22名（20代1名、30代6名、40代8名、50代6名）★種まきチーム（これから自分のやりたいことを固める） 5名 ★つぼみチーム（自分がやろうとしている事業のブラッシュアップ） 17名（途中2名不参加）
- 2. 1期・2期・3期生(合計50名)のその後の検証・キックオフからプロジェクト修了、またそののちについての「気持ちの変化」と「行動の変化」「環境・状況の変化」を調査。・利用して良かったサポート、今後必要なサポートを確認。・上記の報告書作成。（円卓会議にて別紙報告）
- 3. なでドリ卒業生の主体的取り組みへの動き・1・2・3期生合同の交流会を実施したところ、やりたいことを形にしてみる実践の場を持つと1期生より提案があり、松山市総合コミュニティーセンターのコミュニティープラザを会場に、6/9にチャレンジショップ開催が決定。ただ実践するだけではなく、一般客および起業支援を行う機関の方などに、「評価シート」を投票してもらい、今ある課題やこれから取り組むべきことを知り得て、学ぶ場とする。受講生が主体となり、第1回運営委員会（2/10）開催。参加者決定後、第2回運営委員会（3/21）にてチラシ作成・広報ほか進めていく。また、協賛企業募集中。
- 4. 経済産業省事業とのつながり、受託（女性起業家等支援ネットワーク構築事業）・平成28年度より5年間で実施している標題事業において、今年度より弊社が四国代表事務局となる。・起業ステージ0、1層の掘り起こしとそのサポート、また、支援機関をネットワーク化、支援の質向上を図ることが目的。四国の取組みを「花ひらくプロジェクト」とし、今年度は4県の情報収集とニーズ調査、講座を実施しての反応の確認とロールモデル発掘。
(<http://hanahiraku.net/>)

事例から

- 墨田区 新ものづくり創出拠点 墨田区中小企業のものづくりの蓄積と都心の優位性、VBの課題を組み合わせる新しい仕事づくり、新しい価値づくり⇒人、企業をつながりから新たな創造⇒VBがステップアップするエコシステム
- 帯広市 農業をベースにした産業・企業・人をつながり⇒新しい価値の創造、ネットワークの広がり⇒地域で課題を解決していく⇒新しい動きが生まれるエコシステム
- 松山市 地域の課題、地域の中小企業の課題を地域の中小企業が中心になって発見し、協力し、解決していく⇒地域に核になる人材、団体、組織を育成⇒新しい流れを（問題発見ー協力ー協働で解決ー地域力が高まるー地域エコシステムの強化）